

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 100-0011
 住 所 東京都千代田区内幸町1丁目1番3号
 氏 名 東京電力フュエル&パワー株式会社
 代表取締役社長 守谷 誠二 印
 (代理人) 川崎火力発電所長 森村 光裕
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	東京電力フュエル&パワー株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区千鳥町5番1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	F	電気・ガス・熱供給・水道業
	中分類	33	電気業
主たる事業 の内容	電気事業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	***** k l	
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数	台	
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	***** t-CO ₂	
連絡先	担当部署	担当部署名	川崎火力発電所 発電技術グループ
		所在地	川崎市川崎区千鳥町5番1号
		電話番号	044-576-3400
		FAX番号	044-266-6989
		メールアドレス	ks522gi.jutsu@tepcoco.jp
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成29年度 ~ 平成31年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

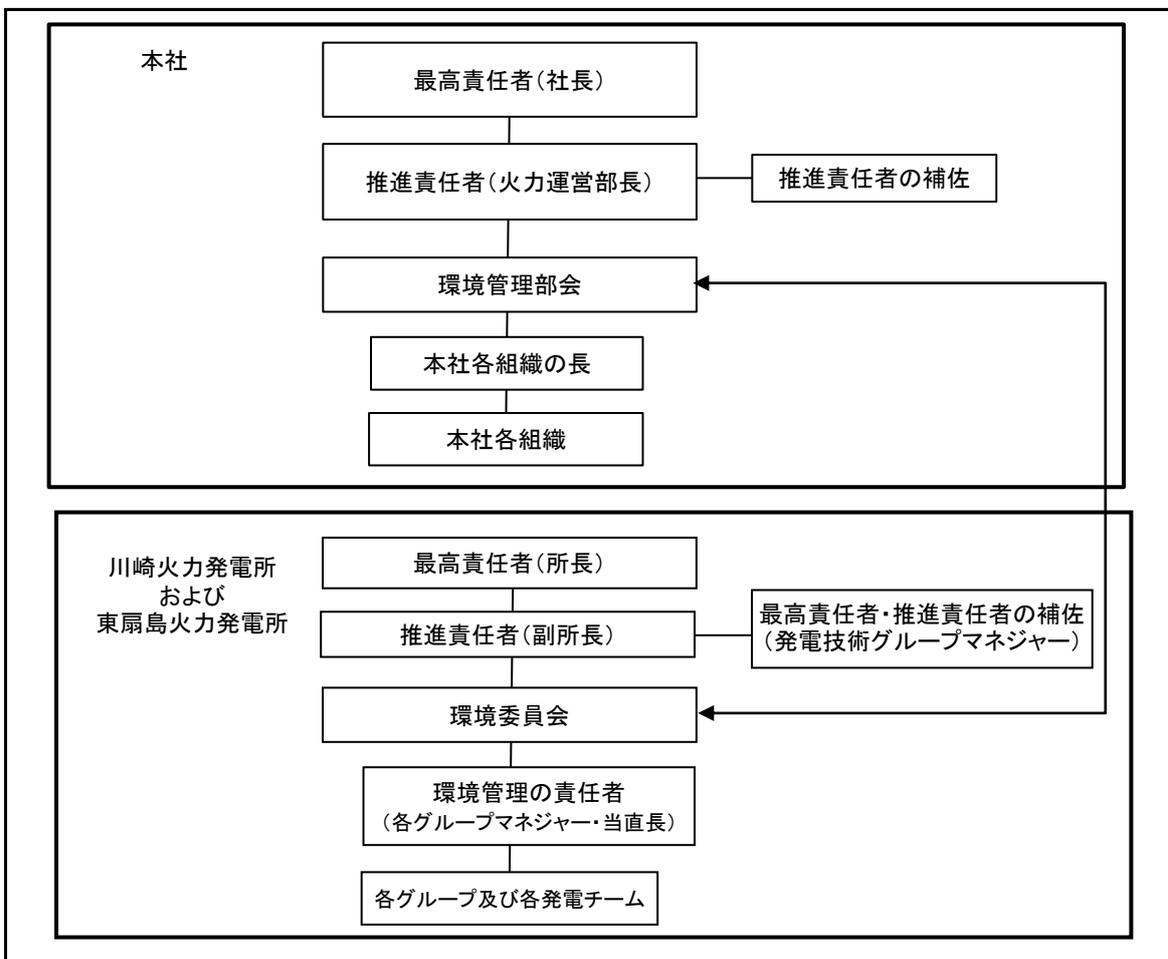
事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

○当社は「経済性」「環境性」および「エネルギーセキュリティ」の観点から、各燃料のバランスの取れた適切な電源ポートフォリオの構築に向けて取り組んでおり、会社全体において、CO2排出量が少ないLNG火力発電の活用や、高効率発電設備の導入、発電熱効率の維持・向上に取り組む、CO2排出抑制および販売する電力の低炭素化に努めます。

川崎火力発電所及び東扇島火力発電所においても、発電熱効率の維持・向上に取り組む、CO2排出抑制および販売する電力の低炭素化に努めます。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成28年度	目標年度	平成31年度
基準排出量	(実) ***** t-CO ₂ (調)	目標排出量	(実) ***** t-CO ₂
削減率	(実) ***** %	削減量	(実) ***** t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	—	単 位	—
基準年度の値	—	目標年度の値	—
削減率	#VALUE! %		
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

当社は電力の安定供給のためにエリア全体の負荷調整を全発電所で行っており、発電所単体で運用をコントロールできないことから、川崎市内分の目標排出量等を設定することはできません。このため、目標排出量欄には基準排出量を記載しております。また、上記運用により原単位については会社全体での原単位のみとなり、川崎市内分の原単位として基準年度の原単位及び目標年度の原単位を記載することはできません。当社はCO2排出量が少ないLNG火力発電の活用や、発電熱効率の維持・向上に取り組むことで、全社としてCO2排出抑制に努めたいと考えます。以下に会社全体の原単位を記載いたします。
(参考) 会社全体での原単位：0.468 t-CO₂/MWh (基準年度(平成28年度))

また、オフィス部門のCO2削減対応として、夏季、冬季におけるエアコンの温度設定管理の徹底、不要部分の消灯等、電気使用量削減に取り組めます。
配分前：*****、配分後：***** (基準年度(平成28年度))

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標 (全社目標)

当社は「経済性」「環境性」および「エネルギーセキュリティ」の観点から、各燃料のバランスの取れた適切な電源ポートフォリオの構築に向けて取り組んでおり、会社全体において、CO2排出量が少ないLNG火力発電の活用や、高効率発電設備の導入、発電熱効率の維持・向上に取り組む、CO2排出抑制および販売する電力の低炭素化に努めます。

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<p>○川崎火力発電所及び東扇島火力発電所としては、具体的な措置として以下の取組みを実施し、発電熱効率の維持・向上、CO2排出抑制及び販売する電力の低炭素化に努めます。</p> <p>・蒸気圧力・温度・流量、復水器真空度等の管理値を設定すると共に、日常管理を行い、最適な運転ができるように努めます。</p>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

現在、川崎火力発電所及び東扇島火力発電所構内に保有する太陽光発電設備を有効活用し、自社消費電力の一部に充当することでCO2排出抑制に努めます。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考
太陽光発電設備(自社消費)	①東扇島火力発電所(出力:1.0kW) ②川崎火力発電所(出力:0.24kW)	①1999 ②2007	導入済

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

○世界最高水準の熱効率約59%を達成する1500℃級コンバインドサイクル発電(MACC発電)を2007年に川崎火力発電所に導入。
(高効率火力発電所としてライフサイクル全体でCO2削減に貢献する製品・技術として評価され、低CO2川崎ブランド'09に選定)

○熱効率約61%を実現する1600℃級コンバインドサイクル発電(MACCⅡ発電)を2016年に川崎火力発電所に導入。
(現在、他社における蒸気タービンの不具合事例を踏まえた応急対策工事を行っていることから、当初設計と比べて約59%に低下している)

○川崎火力発電所MACC・MACCⅡ発電設備で利用した蒸気を川崎市千鳥・夜光地区のコンビナートへ供給する省エネルギー、CO2削減の取組み

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

- 発電の低炭素化・高効率化によるCO₂排出原単位の削減をすることにより、電気を使用するお客さまのCO₂排出量の削減に寄与しています。
- ガスタービン等の取替工事の実施により熱効率が向上し、燃料使用量やCO₂排出の抑制を実現。
- 火力発電のCO₂排出抑制対策として、発電所設備の定期的な保守・点検を実施し、熱効率の維持に努める。

<川崎市内>

○世界最高水準の熱効率約59%を達成する1500℃級コンバインドサイクル発電（MACC発電）を2007年に川崎火力発電所に導入。

（高効率火力発電所としてライフサイクル全体でCO₂削減に貢献する製品・技術として評価され、低CO₂川崎ブランド'09に選定）

○熱効率約61%を実現する1600℃級コンバインドサイクル発電（MACCⅡ発電）を2016年に川崎火力発電所に導入。

（現在、他社における蒸気タービンの不具合事例を踏まえた応急対策工事を行っていることから、当初設計と比べて約59%に低下している）

○川崎火力発電所MACC・MACCⅡ発電設備で利用した蒸気を川崎市千鳥・夜光地区のコンビナートへ供給する省エネルギー、CO₂削減の取組み

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- グリーン購入の推進
当社独自ガイドラインの基準を設け、事務用品等の購入に当たっては、グリーン購入を推進。

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	*****	t-CO ₂
(調)	*****	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k_l 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
東扇島火力発電所	川崎市川崎区東扇島 3 番地	3311	発電所	***** t-CO ₂
川崎火力発電所	川崎市川崎区千鳥町 5 番 1 号	3311	発電所	***** t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 以上 1,500k_l 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k _l 未満	
300~400k _l 未満	
200~300k _l 未満	
100~200k _l 未満	
100k _l 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎火力発電所	川崎市川崎区千鳥町 5 番 1 号	3311	発電所	***** t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	1
------	---